

弥山「消えずの火」

焼き菓子モチーフに

廿日市市宮島町のパン製造販売「おひさまパン工房」が、弥山山頂近くの不消霊火堂の「消えずの火」にちなんだ焼き菓子「ラスク 消えずの恋の火」を考案した。霊火堂と真言宗大聖院で販売している。ラスクは、島内の菓子業者から仕



消えずの火にちなんだラスクを手にする野村さん

宮島のパン工房

入れたもみじまんじゅう用のこしあんを表面に塗って焼き上げた。8枚入りで500円。霊火堂がNPO法人地域活性化支援センター(静岡市)の「恋人の聖地」に認定されていることから、恋愛に関するおみくじも付けた。

パン工房は昨年4月に開店。霊火堂を管理する大聖院の協力で、約1200年間燃え続けているとされる「消えずの火」から採った火種を絶やさず石窯でパンを焼いている。店主の野村直さん(41)が今年6月、開店1周年の報告に大聖院を訪れた際、吉田正裕座主から商品開発の提案を受けた。

野村さんは「カップルや家族連れなどで宮島を訪れた思い出に買い求めてもらえれば」と話している。

(村上和生)